

相談援助の視座と社会福祉援助の展開過程

- ・ 集合研修1「相談援助の視座と社会福祉援助の展開過程」を受講するにあたり、事前に本資料を読み、講義の概要を確認してください。

1. ソーシャルワーク実践の視座

ソーシャルワーク実践の基本的な立場（視座）と原理について、下記の順に学んでいきます。

- ① 価値・知識・技術の関係
- ② ソーシャルワークの専門性
- ③ 個人と社会との関係という一元論的な視点
- ④ ジェネラリストの視点
- ⑤ 利用者主体、権利擁護というエンパワメントの視点

相談援助サービスはソーシャルワークを用いて展開されます。ソーシャルワークの歴史を踏まえながら、その専門性を価値・知識・技術の関係から学びます。また、ジェネラリスト、エンパワメントといったすべての実践に共通する視点について学びます。

2. ソーシャルワーカーの機能

ソーシャルワークとは「社会生活上の問題の解決・緩和を目指して、専門的知識や技能を用いて相談援助活動を行い、地域における人々の生活を支援する営み」と位置づけ、その機能を明らかにしていきます。下記の順に学んでいきます。

- ① ソーシャルワーク実践とソーシャルワーカー
- ② ソーシャルワーカーの機能の概要
- ③ さまざまな職種等との連携・協働
- ④ ソーシャルワーカーの機能の向上

社会福祉士は相談援助を行ううえで、目の前の利用者と家族だけでなく、連携・協働をふまえた関係機関のネットワーク構築や、広く社会の制度政策への働きかけなども行う必要があります。その機能の方向性と機能をそれぞれ理解し、今後の実践に向けて学んでいきます。

3. ソーシャルワーク実践の展開過程

ソーシャルワーク実践は以下の8つの段階をふまえて実施します。

- ① 問題の発見
- ② インテーク
- ③ アセスメント
- ④ 支援目標の設定

- ⑤ 支援計画の策定
- ⑥ 支援計画の実行
- ⑦ モニタリング
- ⑧ 全体評価

養成課程でも学んだこととは思いますが、もう一度実践をふまえてそれぞれの段階ごとに必要な視点を学び、実践においても展開過程が意識できるように学んでいきましょう。

- この科目は『新 社会福祉援助の共通基盤 第2版』上巻 社会福祉士がとらえる相談援助 第2節～第4節をもとに作成しています。
- 『新 社会福祉援助の共通基盤 第2版』の中で同じような意味で使用されている用語の統一をはかるために、相談援助、社会福祉援助、実践などは「ソーシャルワーク実践」に、利用者、対象者、クライアントなどは「クライアント」にまとめています。

実践のためのアプローチ

- 集合研修2「実践のためのアプローチ」を受講するにあたり、事前に本資料を読み、講義の概要を確認してください。

1. 実践モデルと実践アプローチ

実践モデルは実践のガイドを果たす概念枠組みであり、実践アプローチはモデルに基づき、援助活動を展開する組織化された手立てととらえることができます。理論と実践の相互作用が、実践学といわれるソーシャルワークにおいて不可欠であることはいうまでもありません。勘と経験に依拠する実践から一定の科学の成果や法則を採用して、応用する科学的実践へさらに進めていく。クライアント発信による援助理論の構築も進められています。理論と実践をつなぎ、さらに実践のためのアプローチについて学んでいきます。

2. アプローチによる実践の比較・いくつかの主要なアプローチ

ソーシャルワークの理論は、その時代の状況と実践を反映しています。複雑化する福祉問題に対応するべく、援助方法・技術の拡大がみられており、ソーシャルワークのアプローチも多様化してきています。ソーシャルワーク実践における、ミクロレベルのさまざまなアプローチについて学んでいきます。

3. 相談援助の技法

クライアントと援助関係を結ぶための技法について学んでいきます。

まずは①「専門的な援助関係の形成」を結ぶ目的と意義について改めて確認していきます。そして、②「コミュニケーション」、③「面接」、④「記録」といった、ソーシャルワーカーの必須能力として重要視されているものと、今日のソーシャルワークを社会福祉士が展開していく際に、改めて見直す必要のある技法として、⑤「アウトリーチ」、⑥「コーディネート機能」、⑦「社会資源開発」について、理解を深めていきます。

4. 組織マネジメント・サービスマネジメント・リスクマネジメント

質の高い支援を行う・サービスを提供するためには、組織内のチームワークが重要になります。また、組織のサービスマネジメントについて理解することは、利用者に対する「質の高い」支援へとつながっていきます。①組織マネジメント、②サービスマネジメント について、自分の実践を振り返りながら学んでいきます。また、福祉組織が「リスク」に直面する可能性は否めません。また、リスクは多岐にわたっています。そこにかかわる社会福祉士は、③リスクマネジメントについての理解を深めていくことが重要です。この点について学んでいきます。

- この科目は『新 社会福祉援助の共通基盤第2版』上巻 社会福祉士がとらえる相談援助 第5節～第6節、『新 社会福祉援助の共通基盤第2版』下巻 社会福祉士がとらえる福祉経営 第2節をもとに作成しています。
- 『新 社会福祉援助の共通基盤第2版』の中で同じような意味で使用されている用語の統一をはかるために、相談援助、社会福祉援助、実践などは「ソーシャルワーク実践」に、利用者、対象者、クライアントなどは「クライアント」にまとめています。

自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク

- ・ 集合研修3「自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク」を受講するにあたり、事前に本資料を読み、講義の概要を確認してください。

1. 生活をとらえる視点

社会福祉士として、生活を構造的・機能的にとらえる視点について、下記の順に学んでいきます。

- ① 生活とは何か
- ② 生活の時間と場でのとらえ方
- ③ 生活構造的なとらえ方
- ④ 生活学的アプローチの諸側面
- ⑤ 社会の変化と社会構造論的アプローチ
- ⑥ 今日的な社会福祉の動向と生活構造

これらの項目は、現在の社会福祉学や社会政策論の豊かな基盤となっていていきます。その内容を学ぶことは生活を理解する枠組みと基本的知識になります。

2. 生活問題のとらえ方

生活問題や生活問題を抱えるクライアントを、社会福祉士はどのようにとらえればよいのか。生活問題とは何かについて確認し、生活問題を把握するための枠組みを学んでいきます。

- ① 生活問題とは何か
- ② 生活問題を把握する枠組み

3. 自立生活支援の考え方

自立支援を行う社会福祉援助の大前提となる「自立とは何か？」という事を押さえた上で、クライアントを中心とした支援の考え方について学んでいきます。

- ① 自立生活の意味
- ② 自立生活支援

4. 社会福祉基礎構造改革と自立生活支援

社会福祉基礎構造改革により、地域福祉が中心課題となりました。社会福祉士はクライアントの「自立生活」を支援する役割であるため、改めて「自立生活支援」について学んでいきます。

5. 地域生活支援とコミュニティソーシャルワーク

地域生活支援とコミュニティソーシャルワークの基礎について、学んでいきます。

- ① 地域自立生活支援に求められる視点
- ② コミュニティソーシャルワークの考え方
- ③ コミュニティソーシャルワークが展開できるシステム

- この科目は『新 社会福祉援助の共通基盤 第2版』上巻 社会福祉士がとらえる生活構造 第2節～第4節、『新 社会福祉援助の共通基盤 第2版』下巻 社会福祉士がとらえる地域支援 第2節をもとに作成しています。
- 『新 社会福祉援助の共通基盤 第2版』の中で同じような意味で使用されている用語の統一をはかるために、相談援助、社会福祉援助、実践などは「ソーシャルワーク実践」に、利用者、対象者、クライアントなどは「クライアント」にまとめています。

